学校番号	２１０２

令和２年度福祉科

教科	福祉科	科目	生活支援技術	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	生活支援技術（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では移動、食事、入浴、衣服の着脱などについての基本的な介護技術を学びます。加えて、高齢者や障害者が生活する上に課題となる事柄、具体的には居住環境、掃除、買い物、金銭管理などに関する支援のポイント、さらにはレクリエーション・ターミナルケアといったことまで学びます。高齢者や障害者の生活全般にわたり、支援が必要となる事柄について幅広く学ぶ科目です。

２　学習の到達目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基礎的な介護の知識と技術を習得するとともに、様々な介護場面において適切・安全に支援できる能力を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	高齢者や障害者には生活上、どのような課題があるか積極的に理解する。実習などで支援技術を身につけたうえで、日常生活の中で、積極的に活用していこうとする。	生活支援に関する知識を理解し、身につけようと努めている。どのような場合にどのような理論や技術を用いればよいか自ら考え、実践しようとする。	車いす移動、食事介助、衣服着脱介助、レクリエーションの支援、ボディメカニクスを活かした介助などについて基本的な技術を身につけ日常生活の中で実践する。	高齢者などのこころとからだについての知識を得る。その上で、高齢者の生活支援に関する知識を身につける。
評価方法	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	生活支援の理解	・生活の理解 ・生活支援の考え方 ・他の職種の役割と協働	○	○	○	○ ○	a：「個人の尊厳」「自立」「自己決定」「ノーマライゼーション」などの介護・福祉の理念を理解し、日常の生活の中でこれらの諸理念を意識して行動しようとする。 b：支援を必要とする人のアセスメントをＩＣＦを通して行い、適切な支援内容を考えることができる。 c：支援を必要とする人のアセスメントを試み、何がデマンドか、ニーズかを判断することができる。 d：a にあげた理念やＩＣＦを理解する。多職種が連携して介護・福祉が支えられていることを知る。それぞれの職種の役割について理解し、必要に応じて自ら連携していく。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート
	自立に向けた生活支援技術	・基本となる介護技術 ・居住環境の整備 ・身じたくの介護 ・移動の介護 ・食事の介護 ・入浴・清潔保持の介護 ・排泄の介護 ・家事の介護 ・睡眠の介護 ・レクリエーションと介護	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a：高齢者や障害者がどのような点に支援を必要としているか、関心をもつ。身近にいる高齢者や障害者に支援をしようと心がける。 b：高齢者や障害者個々の身体状況や残存能力に配慮しつつ、日常生活における具体的な介護の場面でどのように介護技術を用いるか、自ら考えようとする。 c：各項目に対応する体験や実習に関心をもち、積極的に参加する。 d：基本的な介護技術や支援の方法について知識と理解をもつ。食事や入浴の介護など、介護は生命に関わる場面があることを理解し、正確な知識と理解をもとうとする。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート

	終末期・緊急時の介護	・終末期の介護 ・緊急時の介護				○ ○	a:緩和ケア・グリーフケア、また死にゆく人の心の動きや苦痛の内容などの理解にもとづき、死に直面した身近な人の生活と心によりそい、支えようとする。 b:死に臨む人の、それぞれの生き方に合わせた生活支援の形を考えることができる。高齢者の事故など緊急事態が生じたときにどのように対応すればよいか判断できる。 c: 死に直面した人に、最期までその人らしく生きることができるように配慮できる。高齢者の事故など緊急事態に遭遇しても、落ち着いた対応ができる。 d:高齢者に対する緊急時対応についての技法を理解している。また緩和ケア・グリーフケア、また死にゆく人の心の動きや苦痛の内容などを理解している。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。